

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

## 資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [語り部スキル](#) | [安心・安全な場をつくる](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

### 安心・安全な場をつくる

組織力を高めるために必要なことはメンバー間の関係性を高めることだ。

メンバー間の「関係の質」が変われば、ものの捉え方や考え方の「思考の質」が変わり、「思考の質」が変われば、そこから生み出される「行動の質」が変わり、「行動の質」が変われば、最終的には「結果の質」が変わる。最終的な成果である「結果の質」を高めるには、サイクルの起点となる「関係の質」そのものに働きかけることが有効だ。

具体的には、その場で意見を言うことが、自分への否定や批判、攻撃につながらないという安全・安心な関係性の土壌をつくるのがまず必要である。

その肝心の「安心・安全な場」はどのような工夫をすればつくれるのか。

どんな参加者でも、「場」に対して何らかの不安を抱えている。

見知らぬ講師や参加者がいる研修会などではなおさらのことだ。

参加者が抱える不安を「4つの壁」で示し、その突破方法を考えてみる。

これは研修会に限らず、日常業務のなかでもいえることだ。

#### 1、目的の壁…何のためにこの場が存在しているのか、不安を感じている

会議や研修の目的を冒頭できちんと示してから、本題に入る。

ただし、詳細を語る必要はない。

あくまで、全体を貫く目的と意図を伝える。

#### 2、人の壁…近くにいる参加者が何者か、不安を感じている

特にグループでの協働を伴う際には、打ち解けないまま進めると、距離が開いたままで終わってしまう。

参加者間の自己開示を早いタイミングで促す。

人は、誰かに自分の思っていることや感じていることを吐き出すことで、スッキリするし、参加動機や今の気持、価値観といったところまで共有できると、相手との距離が近くなる。

#### 3、時間の壁…いつまで拘束されるのか、時間に不安を抱えている

研修やワークショップの終了時刻など、時間に関するストレスを早いタイミングで取り除くことも大切だ。

#### 4、形式の壁…どんな形式で進行していくのか、そのやり方に不安を抱えている

どんな形式やスタイル、ルールで進めていくのかを先に示すことも有効だ。

特に、双方向型の研修では、参加者に一般的なスタイル（一方通行の座学形式）とは明確に異なることを伝える。

参加者が場に対して感じている不安の壁をあらかじめ認識し、その壁を取り除くことで、参加者は落ち着くことができる。

安心・安全な状態になると、参加者はリラックスし、思っていること、感じていることを発言できるようになる。

また、周囲のメンバーも同じような状態になって相互作用が働き、互いに高め合う関係に近づける。

それが、組織の「結果の質」を高めることにもなるのだ。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

## Worker's Library 会員登録

### お申し込みはこちらです。

>>> [一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

📄 サイトマップ   🔍 このサイトについて   🛡️ 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

**Worker's Library** 静岡で働く人のための資料閲覧サイト  
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.